

宮地鉄工 正真 後藤 茂夫
 “ “ “ 松本 陽太郎

本理論は、曲げ剛さを有する弦状の節奥が、軸力部材である腹材により、任意に結合された形式、すなわち、一般ニールセン系構造物の一解法を示したものである。一般に、このような高次不静定構造物の解法は変形法によるのが便利であることはいふまでもない。変形法では一節奥につき、水平、垂直、回転の3ヶの未知変位を取扱うが本理論では、腹材の曲げ剛さが無いことに着目し、弦状節奥に関する3連モーメント式を用い、回転変位の式に替えた。したがって、出発点の未知量は、節奥の水平、垂直変位および曲げモーメントであり、曲げモーメントは、3連モーメント式より水平垂直変位におきかえられ、結局1節奥につき2ヶづつの未知変位を考えることになる。なお、筆者らは、すでに、曲げおよび捩り剛さを有する部材よりなる任意形平面骨組構造のプログラムを完成しているが本解法は、その適用範囲を若干せばめ、演算の高速化をはかるものである。

図の*i*奥の変位のu, v成分を*X_i*, *Y_i*とすれば、3連モーメント式は

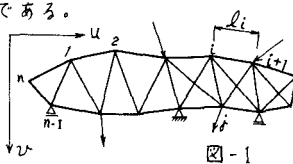


図-1

$$t_{i-1}M_{i-1} + 2(t_{i-1} + t_i)M_i + t_iM_{i+1} = \beta'_{i+1}X_{i-1} - (\beta'_{i-1} + \beta'_i)X_i + \beta'_i X_{i+1} - d'_{i-1}Y_{i-1} + (d'_{i-1} + d'_i)Y_i + d'_i Y_{i+1} \quad \text{--- (1)}$$

となる。ここで $d_i = (u_{i+1} - u_i) / l_i$ $\beta_i = (v_{i+1} - v_i) / l_i$ $d'_i = d_i / l_i$ $\beta'_i = \beta_i / l_i$ $t_i = Q_i / 6EI_i$
 また *i*-*i*+1部材のせん断力、軸力は、 $Q_i = (M_{i+1} - M_i) / l_i$, $N_i = F_i \{ d_i (X_{i+1} - X_i) + \beta (Y_{i+1} - Y_i) - \epsilon t_i l_i \}$ ----- (2)
 たゞし、 $F_i = EA_i / l_i$, t : 上昇温度 ϵ : 線膨脹係数

図のように、節奥*i*の荷重を*P_i*, *H_i*, 腹材より弦状節奥に及ぼす水平、垂直力を*X_i*, *Y_i*とすれば、 $A_i = F_i d'_i / l_i$, $b_i = F_i \beta'_i / l_i$, $C_i = F_i d_i \beta'_i / l_i$
 とおいて、次式が得られる。たゞし温度の項は一応省略する。

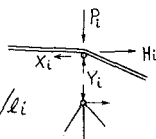


図-2

$$H_i - X_i = -a_{i-1}X_{i-1} + (a_{i-1} + a_i)X_i - a_i X_{i+1} - c_{i-1}Y_{i-1} + (c_{i-1} + c_i)Y_i - c_i Y_{i+1} + \beta'_{i-1}M_{i-1} - (\beta'_{i-1} + \beta'_i)M_i + \beta'_i M_{i+1} \quad \text{--- (3)}$$

$$P_i - Y_i = -b_{i-1}X_{i-1} + (b_{i-1} + b_i)X_i - b_i X_{i+1} - d'_{i-1}Y_{i-1} + (d'_{i-1} + d'_i)Y_i - d'_i Y_{i+1} - d'_{i-1}M_{i-1} + (d'_{i-1} + d'_i)M_i - d'_i M_{i+1} \quad \text{--- (4)}$$

図-1のように弦材が1, 2, …, *n* と一連となつてゐるものとし、次の各行列を定義して、(1), (3), (4)を行列で表わす。

$$t = \begin{bmatrix} 2(t_1 + t_2) & t_1 & \dots & t_n \\ t_1 & 2(t_1 + t_2) & \dots & t_2 \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ t_n & \dots & t_{n-1} & 2(t_{n-1} + t_n) \end{bmatrix} \quad A = F(d) = \begin{bmatrix} d'_n - d'_1 & -d'_1 & \dots & d'_n \\ -d'_1 & d'_1 + d'_2 & \dots & -d'_2 \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ -d'_n & \dots & d'_{n-1} & d'_{n-1} + d'_n \end{bmatrix}$$

$$B = F(\beta') \quad , \quad a = F(a) \quad , \quad b = F(b) \quad , \quad C = F(C) \quad \text{とおけば}$$

$$tM = -BX + AY \quad \text{すなわち} \quad M = -t^{-1}BX + t^{-1}AY \quad \text{--- (5)}$$

$$H - X - aX + cY - BM \quad \text{すなわち} \quad (a + Bt^{-1}B)X + (C - Bt^{-1}A)Y = H - X \quad \text{--- (6)}$$

$$P - Y - bX + dY + AM \quad \text{すなわち} \quad (C - At^{-1}B)X + (b + At^{-1}A)Y = P - Y \quad \text{--- (7)}$$

たゞし、*X*, *Y*, *M*, *H*, *P*, *X*, *Y*は *X_i*, *Y_i*, *M_i*, *H_i*, *P_i*, *X_i*, *Y_i* による列ベクトル (*n*行1列) である。

つぎに、腹裁れについては、軸力は

$$N_{ij} = F_{ij} \{ d_{ij}(x_i - x_j) + \beta_{ij}(y_i - y_j) - \epsilon t l_{ij} \}$$

U, V成分は、 $X_{ij} = a_{ij}(x_i - x_j) + C_{ij}(y_i - y_j)$ $Y_{ij} = C_{ij}(x_i - x_j) + b_{ij}(y_i - y_j)$

となる。ただし、 $d_{ij} = \frac{u_j - u_i}{l_{ij}}$ $\beta_{ij} = \frac{v_i - v_j}{l_{ij}}$ $F_{ij} = \frac{EA_{ij}}{l_{ij}}$
 $a_{ij} = F_{ij} d_{ij}^2$ $b_{ij} = F_{ij} \beta_{ij}^2$ $C_{ij} = F_{ij} d_{ij} \beta_{ij}$

i 点に集まる全腹裁れについての和は、

$$X_i = x_i \sum_j a_{ij} - \sum_j a_{ij} x_j + y_i \sum_j C_{ij} - \sum_j C_{ij} y_j$$

$$Y_i = x_i \sum_j C_{ij} - \sum_j C_{ij} x_j + y_i \sum_j b_{ij} - \sum_j b_{ij} y_j$$

したがって $\bar{a} = \bar{F}(a)$ $\bar{b} = \bar{F}(b)$ $\bar{c} = \bar{F}(c)$ $\left[\begin{array}{ccc} \sum a_{ij} & & -a_{ik} \\ & \sum a_{ij} & \dots \\ -a_{ki} & \dots & \sum a_{ij} \end{array} \right]$; ik 要素は、ik間に腹裁れがあれば $-a_{ik}$ なければ 0 となる。

と定義すれば、全節点については、

$$X = \bar{a} X + \bar{c} Y$$

$$Y = \bar{c} X + \bar{b} Y$$

となり、これより、(6), (7)を用いて X, Y を消去し、温度項を付加すれば、

$$\begin{bmatrix} a + \bar{a} + B \bar{t}^T B & c + \bar{c} - B \bar{t}^T A \\ c + \bar{c} - A \bar{t}^T B & b + \bar{b} + A \bar{t}^T A \end{bmatrix} \begin{bmatrix} X \\ Y \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} H + U \\ P + V \end{bmatrix} \quad \dots (8) \quad \text{ただし } U_i = \epsilon t E (A_i d_{i-1} - A_i d_i - \sum_j A_{ij} d_{ij})$$

$$V_i = \epsilon t E (A_i \beta_{i-1} - A_i \beta_i - \sum_j A_{ij} \beta_{ij})$$

(8)は求める一般式であるが、右辺の荷重は互いに外力として、つりあっていないければ成立せず、また安定な支桌の条件が入っていないければ解は存在しない。支桌の条件の入れ方は、別項、任意形ラメンの解法で示したのと全く同様である。

ヒンジ節点がある場合、たとえば R 点がヒンジのとき、その RR 要素を 1、その他の R 行 R 列要素をすべて 0 とおきかえて逆行列を求め、その R 行 R 列要素をすべて 0 とおいたものを R' の代りに用いればよい。本理論では、弦裁れは閉じた一連の部裁れよりなると仮定している。曲げモーメントの正負の符号は、若い番号を左としたとき、慣用の符号に一致する。弦裁れが閉じない Deck type のような場合には、たとえば図-3 のように番号をふり、1, m, m+1, n には

ヒンジ節点の条件をよえ、仮想部裁れ $n \sim 1, m \sim m+1$ の断面積 A_n, A_m を 0 とする。このとき、 I_m, I_n には 0 でない任意値を与えるとよい。

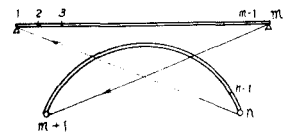


図-3

参考文献

見崎, 成國: Nielsen system 橋

土木学会誌 49, 4